

てんかん と 性

弘前大学医学部 保健学科
和田 一丸

二、妊娠中のてんかん発作

(1) 妊娠中の発作頻度の変化

妊娠中のてんかんの発作頻度については、過去の調査では、四〇%以上の症例で妊娠中に発作頻度は増加し、半数が変化なし、残りの数%で発作頻度が減少すると考えられました。しかし、妊娠中には服薬が不規則となり、その結果発作頻度が増加する場合があります。そのため、その影響を除いたデータが重要となります。最近の国際共同研究では、服薬が規則的であれば、全般発作

をもつ患者の八十三%、部分発作をもつ患者の七十六%で、妊娠による発作頻度の変化はなかったとの結果が得られています。

(2) 妊娠中の発作頻度変化の要因

妊娠中の発作頻度変化と、胎児の性、てんかん罹病期間、母親の年齢、てんかんの病因、産科的問題、てんかん重積発作の有無、妊娠中の体重の増加、生理に関連した発作の有無などの関連性は確認されていません。一方、発作型については、妊娠中には部分発作の方が全般発作よりも発作頻度が増加する症例が多いとの報告があり、妊娠前発作頻度も妊娠中の発作の増加と関連するとの報告があります。以上の結果は、発作の抑制が困難なことの多い複雑部分発作において、妊娠中に発作が増加しやすいことを示しています。また、妊娠中の睡眠不足や疲労などが発作誘発因子として関与している場合もみられます。

先に述べたように、妊娠中に発作頻度が増加する要因として重要なもの

一つに、妊娠中の不規則な服薬があります。抗てんかん薬の胎児への副作用、とくに奇形発現に対する心配から服薬が不規則になり、その結果妊娠中に発作が増加してしまう場合が多く認められます。不規則な服薬を避けるためには、妊娠前カウンセリングで患者さんの疑問、不安に充分答えておくことが重要となります。

抗てんかん薬の血中濃度との関連では、従来は、妊娠中の抗てんかん薬の血中濃度低下が発作頻度増加の重要な要因であると言われていました。しかし、血中濃度の低下と発作の出現が一致しない例も多いほか、発作抑制に直接関与するのは遊離型抗てんかん薬濃度であるため、妊娠中の抗てんかん薬の血中濃度低下がどの程度発作頻度に影響を及ぼすかは不明です。規則的に服薬している人では、妊娠中に血中濃度が低下しても、それがただちに発作に結びつくとは考えにくく、妊娠中に薬を増やすか否かは血中濃度の低下で判断するのではなく、発作が増加したか否かで判断すべきです。